県南家畜市場通信

令和5年11月号

「 教えて！ 子牛のこと 」

風と共に転がる落ち葉の音がカラカラと聞こえます。踊るように軽快な音に聞こえると同時に、冬が近いことも感じさせられ、とても複雑な気持ちになりますね。我が家の飼い犬は、哀愁に浸っている飼い主をよそに、大喜びで落ち葉の上を歩いています。

さて、今号は、わかっているようであやふやなこと、あやふやなままになっていそうなことをピックアップして、答えを整理してみました。子牛の出生から出荷まで、元気で立派に育て上げるために、確認してみてください。

～ 出生時 ～

Q 子牛が産まれました。どんなことをしてあげればいい？

A ① 呼吸の確認と確保をする

仮死状態で生まれた場合は → 鼻や口まわりの羊水・胎膜の除去
ワラなどを使ってくしゃみを誘発
マッサージ

「温める」「乾かす」を同時にできる
カーフウォーマー
これからの時季にとても重宝！
↓↓

② 羊水をしっかり拭く

特に寒い時期はすぐに冷えてしまうので、体を乾かすことが重要です。
しっかり拭くことがマッサージとなり呼吸を助け哺乳欲が上がります。

③ 臍（へそ）とその周囲をヨードチンキで消毒する

へその緒を消毒液に十分浸します。
へその緒が乾くまでの数日間は継続します。

④ 清潔で乾燥した環境を用意する

病気感染リスクが低い環境で飼養します。
敷料としてたっぷりのワラを敷きます。

Q 初乳は、とにかく早く飲ませた方がいい？

A 子牛が自分で立ち上がるまで少し待ちましょう！

初乳中の免疫の吸収力は出生後、時間がたつほど弱まってしまいますが、子牛側が初乳を吸収できるようになるまでにも少々時間が必要です。

安産だったとしても、出生直後の第4胃には羊水がたくさん残っています。第４胃内の羊水は口から吐かせることができません。羊水が小腸の方へ流れて出て、第４胃に空きスペースができると哺乳欲が発現し、初乳を吸収できるようになります。**子牛が自ら立ち上がれば初乳を飲む準備ができたサイン**です。

とは言っても「出生後６時間以内に初乳を飲んで欲しい！」　そこで…

やってみよう！

少しでも早く哺乳欲を出させるために

①母牛に子牛を舐めてもらう（リッキング）
②母牛が舐めなければ、タオルやワラ、ブラシなどで全身をマッサージ
③ある程度意識がはっきりしたら肛門を刺激して胎便を出す
（綿棒を肛門に入れやさしくマッサージ、肛門付近を指でやさしくマッサージ）

ポイント

母牛のリッキングは非常に重要です。子牛は全身のマッサージを受け血液の循環が良くなり、消化管を活動させ胎便の排出ができ、哺乳欲や立ち上がる活力が出ます。

～ 哺乳期 ～

Q スターターって どうして必要なの？

A 早期に第１胃を発達させ、良好な発育を確保するためです！

生後１週間頃からスターターを与え、第１胃を発達させることが、子牛をすくすく育てるための第１歩です。

スターターと育成用配合飼料の違いは？

- タンパク含量が高い
- エネルギーが高い
- 吸収しやすい
- 発酵が穏やか

スターターは子牛のお腹にやさしい離乳食です！

糖蜜を添加して嗜好性をよくしたスターターがオススメ！

スターターの役割

① **栄養補給**
母牛の泌乳量は不安定で、飲乳量が不足していることもあるが、スターターがカバーしてくれる

② **第１胃の発達促進**
スターターを発酵･分解してできる「お酢」(のようなもの)が、第１胃の絨毛を発達させる

③ **粗飼料の消化促進**
第１胃内微生物のエネルギーとなり、微生物が活性化することで、粗飼料を消化できるようになる

Q 乾草は与えた方がいい？

A 少しの量を与えましょう！

諸説ありますが、50～100g/日を与えるのが良いでしょう。
哺乳期の乾草は栄養価には無関係ですが、物理的に第１胃を整える役割があります。
ただし、量が多いとスターターを食べなくなってしまうので少量を与えます。
スターターを十分食べられるようになったら、量を増やします。

お問い合わせ≫　奥州農業改良普及センター（0197-35-8451）　一関農業改良普及センター（0191-52-4961）

《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロードはこちら→

○ 自然哺乳と人工哺乳について

年間シリーズ

自然哺乳の注意点

⑴　乳量

乳量は、産次・体格・栄養状態により変わります。分娩直後が最大で次第に減少します。初産や高齢牛は乳量が低くなりがちです。

子牛に元気がない、乳頭への吸い付きが多い場合、乳量不足が考えられます。人工哺乳で不足分を補います。

⑵　乳質

母牛自身が栄養不足の場合、消化しにくい母乳が作られ、子牛の下痢の原因になります。分娩前後に増飼いをして良質な母乳を作れるようにします。

⑶　栄養

子牛が大きくなるにつれ栄養が必要になりますが、母牛の乳量は減っていき、母乳だけでは栄養が不足します。スターターを給与し栄養を補給しましょう。

人工哺乳のポイント

⑴　ミルク調製

ミルクの濃度が薄いと上手く消化できなくなるため、必ず製品の説明書きのとおりに希釈します。

飲むときに母乳に近い温度になるよう少し高めの温度（夏は42℃、冬は45℃程度）のお湯でミルクを溶かしましょう。

⑵　ミルク給与

子牛にミルクを飲ませるときの高さは、母牛の乳房の高さにします。飲ませるときは必ず乳首を使います。

哺乳瓶や乳首などの器具はしっかり洗浄・消毒します。

自然な哺乳が理想です。人工哺乳はこの高さを意識しましょう。